

指定管理者評価シート

事業名	青少年科学館等運営管理業務	所管課(電話番号)	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課(211-3871)
-----	---------------	-----------	-----------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市青少年科学館	所在地	厚別中央1条5丁目2-20
開設時期	昭和56年10月(平成9年3月第2期整備)	延床面積	10,017㎡
目的	科学及び化学技術に関する知識の普及啓発を通じて創造性豊かな青少年の育成を図る。		
事業概要	① 科学及び化学技術に関する資料及び装置の展示。 ② プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発。 ③ 科学に関する図書その他の資料等の収集・配布及び提供。 ④ 科学及び天文に関する実習・実験及び講習会等の開催。 ⑤ 科学館が収集し、又は展示する資料、装置等に関する調査研究及び他機関との協力。		
主要施設	札幌市青少年科学館、札幌市天文台		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	平成26年4月1日～平成30年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由： ・ 学校教育との連携や生涯学習施策の推進の観点から、施設における事業運営にあたり、札幌市と指定管理者が一体的に取組み、札幌市が積極的な関与を行う必要があるため。 ・ 科学館の管理運営を平成11年度から継続的に担っており、十分な経験とノウハウ、専門的人材等を有しているため。		
指定単位	施設数：1 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	① 総括管理業務 ② 施設・設備等の維持管理に関する業務 ③ 事業の計画及び実施に関する業務 ④ 施設の利用等に関する業務 ⑤ 前4業務に付随する業務		
3 評価単位	施設数：1 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

II 平成29年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	▼ 管理運営に係る基本方針の策定 科学及び化学技術に関する知識の普及啓発を通して、創造性豊かな青少年を育てるという理念のもと、「科学を育てるまちづくり」という方針を策定した。	これまでの運営経験や培われたノウハウやネットワークを生かし、専門性の高い学習機会を提供することができた。 条例・規則等を遵守し、市民意見の聴取や適切な広報を通して、団体・一般客の平等利用に努めた。	A B C D 施設設置目的に合致した基本方針を策定し、管理運営に努めているとともに、学習機会の提供に向け尽力しており評価する。
	▼ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 不当な差別的取扱いをしないため、市民からの意見や要望を聞く姿勢を常に持つとともに、札幌市青少年科学館条例や施行規則を遵守し、観覧料の減免等についても適正に取り扱った。		平等利用の確保に向け、市民の意見を取り入れるとともに、自ら発信することに努めており、評価する。

<p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 電気、ガス、水道の使用については、空調設備及び電気設備業者と連携を取り、より良い節約方法を模索し、実施した。 ▼ 廃棄物については、できる限り細分化し、分別してから廃棄した。 ▼ 「環境科学展」の開催や展示物により、省エネ・環境配慮に関する情報を提供することで、市民への興味関心を喚起し、市民へのPRIに努めた。 ▼ 省エネ・環境への興味関心を喚起するため、太陽光パネルの発電量を表示するための展示物を設置している。 <p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 業務分担、指揮命令系統、連絡系統を定めた。 ▼ 館長1名、課長2名、係長5名を配置した。 ▼ 充実したサービスを提供できるよう、適宜嘱託職員・パート職員等の採用を行った。 ▼ 定期的に財団職員会議を行い、様々な問題について協議し、職員間で情報の共有をすることで、充実したサービスの提供に努めた。 ▼ 人材育成のため、外部講師を招いて研修を実施するとともに、外部研修等に参加した。 ▼ 「財団就業規則」や「財団給与規定」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。 	<p>環境局と連携をとり、空調調整や「見える化システム」の導入などにより、効率的なエネルギー運用ができる環境整備に努めた。</p> <p>「環境科学展」の開催や、展示室内に太陽光パネルの発電量を示すモニターなどにより、市民へ省エネ・環境配慮に関する取組みを周知することができた。</p> <p>適切な人員配置を行うとともに、効果的かつ効率的な施設運営を行い、サービスの維持確保に繋げることができた。</p> <p>研修等に積極的に参加し、職員の専門性の向上、技術の向上を図ることができた。</p> <p>各種法令を遵守し、快適な職場環境を維持するよう努めた。</p>	<p>市民へ環境に関する情報提供をするなど環境保全の推進に取り組んでおり、評価する。</p> <p>管理運営組織が確立されており、評価する。今後も、より一層充実した市民サービスの向上に努めること。</p> <p>管理水準の維持向上に向け適切に取り組んでおり評価するが、定期的に事故防止に向け見直す機会を設けるよう努めること。</p>
<p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ ネットワーク環境の整備により各部署間での迅速かつ正確な情報管理を行った。 ▼ 日常より、事故防止に努めるとともに、マニュアルにより、事故発生時の迅速かつ適切な対応をし、事故原因についても迅速に改善、再発防止を心がけた。 	<p>これまでの運営経験で培われたノウハウを活かし、管理水準の維持向上につなげた。</p>	<p>管理水準の維持向上に向け適切に取り組んでおり評価するが、定期的に事故防止に向け見直す機会を設けるよう努めること。</p>
<p>▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 電気技術等専門的な技術・資格を要する施設設備の保守管理を中心に、複数の業務を集約させ、再委託した。また、施設維持のための保守についても、専門職員による業務遂行を目的に再委託した。 	<p>施設の維持管理および展示物の保守管理等を同一業者に委託することで、経費の縮減および業務の効率化を図ることができた。</p>	<p>経費縮減及び効率化が図られており、評価する。引き続き指定管理者としての更なる工夫に期待する。</p>

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 8月10日	・平成29年度4月～7月の事業報告 ・平成29年8月～11月までの主な事業予定 ・その他
第2回 12月12日	・平成29年度8月～11月の事業報告 ・平成29年12月～平成30年2月までの主な事業予定 ・その他
第3回 3月13日	・平成29年度12月～2月の事業報告 ・平成30年度の主な事業予定 ・その他
<p><協議会メンバー></p> <p>北海道情報大学経営情報学部システム情報学科教授、札幌市立豊平小学校校長、札幌市立山鼻中学校校長、札幌市青少年育成委員会青葉地区会長、札幌市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課長、札幌市青少年科学館館長</p>	

▼ 学校連絡会の開催状況は下表のとおり

開催日	協議・報告内容
小学校 1月23日	・理科学習及び総合的な学習における科学館の利用について ・その他
中学校 1月30日	・理科学習及び総合的な学習における科学館の利用について ・その他
<p><協議会メンバー></p> <p>・ 小学校連絡会 豊平小学校校長・簾舞小学校校長・屯田南小学校校長・清田小学校教頭・北野平小学校教頭・澄川西小学校・北野小学校・幌西小学校・百合が原小学校・栄西小学校・北郷小学校・上野幌小学校・平岸西小学校・北野小学校・藻岩小学校・八軒西小学校・西宮の沢小学校・札幌市教育研究推進事業小学校理科研究部・札幌市教育委員会・札幌市青少年科学館</p> <p>・ 中学校連絡会 羊丘中学校校長・篠路西中学校校長・柏中学校教頭・あやめ野中学校教頭・もみじ台南中学校・明園中学校・札幌北中学校・山鼻中学校・篠路中学校・美香保中学校・北白石中学校厚別中学校・陵陽中学校・北野中学校・藻岩中学校・八軒東中学校・手稲中学校・札幌市青少年科学館</p>	

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入し、適正に対応できた。

学校関係者や学識経験者から当館事業の運営についてアドバイスをいただき、以後の事業運営に活用することができた。

運営協議会の役割と意義について見直し、事業報告の場にならないよう留意した資料や進行となるよう努めること。

小中学校関係者から授業へつながる科学館利用について意見・アドバイスをいただくことができた。また、児童、生徒のみならず、教員向けの講座等を多く実施してほしいとの声をいただいている。

小中学校からの意見やアドバイスは率直に受け止め、引き続き学校教育との連携強化に努めること。

資金管理、現金等の取り扱いについては、取扱要領等に則り、管理体制を整備することで、重大な事故を起こすことなく、適正に管理することができた。

適切に取り組みされており、評価する。今後も適切な財務管理が行われるよう、職員の意識啓発や職員間のチェックを怠らぬこと。

	<p>▼ 流動性や利回り等に配慮し、金融機関及び金融商品の安全性に一層留意した対応を行っている。また、試算の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守した。</p> <p>▼ 現金等の取り扱いを適正に行うため、「経理面で不正防止対策要領」に則り、事故・不祥事を未然に防ぐ取り組みを行った。</p> <p>▼ 現金等の取り扱いについて「小口現金取扱要領」を定め、適正に行った。</p> <p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>▼ 要望・苦情対応について報告書を作成し、職員に周知した。</p> <p>▼ 全ての職員が常期的確な対応ができるように、情報の蓄積を行い、対応方法等の情報の共有化を図ることで、迅速な対応に結び付けた。</p> <p>▼ 子どもたちの意見・要望を聞き、運営の参考にする「子ども科学会議」でいただいた意見・提案について、情報の共有に努めた。</p> <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価（記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施）</p> <p>▼ 職員の接遇や施設の利用環境、事業に関する満足度を総合的に伺う「利用者アンケート」を逐次実施し、利用者の生の声を事業運営等に活かした。</p>	<p>規約の周知徹底を図り、事故なく適正に管理することができた。</p> <p>要望・苦情については、報告書で残すとともに、回答についても素早い対応をすることができた。</p> <p>アンケート結果は各項目について「とてもよかった・よかった」が80%以上であり、利用者に満足いただけたことがうかがえる。</p>	<p>苦情等について、逐次報告があり、適切な処理が行われているが、苦情については真摯に受け止め、より良い運営に資するよう努めること。</p> <p>市民から寄せられる声に常に耳を傾け、今後とも意見や要望を踏まえ、業務を改善するよう努めること。</p>												
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>▼ 財団諸規則の周知や、労務相談窓口、ハラスメント相談窓口を設置するなどし、適正な労働環境の確保に努めた。</p> <p>▼ 「財団就業規則」や「財団給与規定」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランス取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めた。</p>	<p>関係法令を遵守し、雇用環境の向上に努めた。</p> <p>社労士に委託し、相談窓口の設置や労務環境及び諸規則についての相談を行い、職員の労働環境の改善に繋がった。ハラスメント防止研修を全職員対象に実施し、職員の意識の向上に努めた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td style="background-color: #FFC0CB;">C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4">職員の働きやすい環境となるよう尽力するとともに、職員の声にも常に耳を傾けること。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">36協定などを遵守し、引き続きより良い労働環境となるよう努めること。</td> </tr> </table>	A	B	C	D	職員の働きやすい環境となるよう尽力するとともに、職員の声にも常に耳を傾けること。				36協定などを遵守し、引き続きより良い労働環境となるよう努めること。			
A	B	C	D												
職員の働きやすい環境となるよう尽力するとともに、職員の声にも常に耳を傾けること。															
36協定などを遵守し、引き続きより良い労働環境となるよう努めること。															

<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総合的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 災害時の対応について、マニュアルに基づき、火災避難誘導要領、自衛消防組織編成、役割分担等を作成し、利用者の安全確保に努めた。 ▼ 利用者を安全・円滑に避難誘導させることができるよう、無線機を備え、避難要領を作成した。 <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 清掃、警備、保守点検について仕様書に基づき、適切に実施している。なお、設備保守、展示物保守、清掃、警備、エレベータ、エスカレータ保守、電話交換機保守、そ族害虫駆除、除雪、樹木芝生管理、自動扉、消防設備、吸収式冷凍機等、特殊展示物(スーパードリームライド、人工降雪装置等)については、第三者委託により実施した。 ▼ 躯体の老朽化に伴い、雨漏りなどが発生しているため、修繕について札幌市教育委員会と調整を図った。 ▼ 屋外タイル等躯体以外の老朽化に伴い、破損箇所が発生しているため、札幌市教育委員会と調整を図り改善していきたい。 ▼ 展示物の老朽化に伴い、休止中のものが存在しているため、札幌市教育委員会と調整を図り改善していきたい。 <p>▽ 防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 防災計画を策定するとともに、年度内2回の防災訓練を実施し、避難体制の確認に努めた。 	<p>各種災害に関する避難マニュアルを作成し、定期的な防災訓練を行うことで利用者の安全確保に努めることができた。</p> <p>業務の効率化、施設・展示物の老朽化への対応として、教育委員会と連携し、計画的に対応することができた。</p> <p>火災やJアラート発生時の対応等、様々な災害を想定した訓練を実施することにより、災害発生時の対応力の向上を図ることができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">引き続き、安全確保の強化に向けた取組を期待する。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">適切に取り組みされており、評価する。施設等の老朽化に伴う修繕においては、利用者のみならず、周辺住民にも多大な影響を与えることから、今後も教育委員会との連絡を密にして取り組むこと。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">展示物の老朽化による休止・故障状況を随時、報告しており評価する。なお、これまで以上に密な連携を図るよう努めること。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">適切に取り組みされており評価する。なお、公の施設であることを忘れずに今後も万全の準備をするよう努めること。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	引き続き、安全確保の強化に向けた取組を期待する。				適切に取り組みされており、評価する。施設等の老朽化に伴う修繕においては、利用者のみならず、周辺住民にも多大な影響を与えることから、今後も教育委員会との連絡を密にして取り組むこと。				展示物の老朽化による休止・故障状況を随時、報告しており評価する。なお、これまで以上に密な連携を図るよう努めること。				適切に取り組みされており評価する。なお、公の施設であることを忘れずに今後も万全の準備をするよう努めること。			
A	B	C	D																				
引き続き、安全確保の強化に向けた取組を期待する。																							
適切に取り組みされており、評価する。施設等の老朽化に伴う修繕においては、利用者のみならず、周辺住民にも多大な影響を与えることから、今後も教育委員会との連絡を密にして取り組むこと。																							
展示物の老朽化による休止・故障状況を随時、報告しており評価する。なお、これまで以上に密な連携を図るよう努めること。																							
適切に取り組みされており評価する。なお、公の施設であることを忘れずに今後も万全の準備をするよう努めること。																							
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 施設内にある常設展示物を有効に活用し、実演等を交え、子どもから大人までの幅広い層の来館者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるよう努めている。見て、触れて、考えるをコンセプトに、天文・地球科学、北方圏、電気、力学などの各コーナーの展示物をより楽しく理解しやすくするよう努め、来館者に科学への興味・関心を深めてもらった。 ▼ 小中学校の長期休暇等に、常設展示だけでは体験できない内容の展示や実演を交えた特別展等を開催した。 <p>・ゴールデンウィーク「木と絵本のワンダーランド」 5日間開催(来館者8,149名) (共催:札幌芸術の森美術館) (主な取組み)幅広い世代が楽しめるよう「木」と「サイエンス」をテーマにした展示物を設置した。</p>	<p>展示物を通して広く市民に科学や科学技術の知識を提供できた。</p> <p>小中学生の長期休暇期間等に、特定のテーマを掘り下げた展示・実演を行い、科学の楽しさ、面白さを伝えることができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">科学や科学技術の知識の普及・啓発に向けた取組を実施しており、評価する。また、企画展をはじめ、様々な世代に向けた事業も実施し、市民ニーズを捉えた事業の企画運営に期待する。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	科学や科学技術の知識の普及・啓発に向けた取組を実施しており、評価する。また、企画展をはじめ、様々な世代に向けた事業も実施し、市民ニーズを捉えた事業の企画運営に期待する。															
A	B	C	D																				
科学や科学技術の知識の普及・啓発に向けた取組を実施しており、評価する。また、企画展をはじめ、様々な世代に向けた事業も実施し、市民ニーズを捉えた事業の企画運営に期待する。																							

- ・夏休み「たべものの冒険～消化！そういうことか！」
30日間開催(来館者43,076名)
(主な取組み)食物の消化をテーマに、参加者が食物になったつもりで消化吸収される体験してもらう展示となった。また、北海道大学と連携し専門家による講演を行った。
- ・冬季オリンピック・パラリンピック札幌誘致に関するパネル展
46日間開催(来館者18,714名)
(共催:札幌市スポーツ局)
- ・冬季オリンピック・パラリンピック札幌誘致に関する展示物ラリー
46日間開催(来館者1,757名)
(共催:札幌市スポーツ局)
- ・冬休み「光の迷宮～輝く宝を手に入れろ～」
17日間(来館者21,517名)
(主な取組み)「謎解き」の要素を取り入れ、楽しみながら光について学べる機会を提供した。
- ・春休み「文具×科学～文具の中のサイエンス～」
16日間(来館者21,801名)
(主な取組み)文具の技術的な側面に注目し、子どもにとって身近な道具について学べる機会を提供した。
- ▼ 最先端の研究や科学技術を学ぶ講演会を実施した。
「山崎直子宇宙飛行士特別講演会～宇宙がより身近に！宇宙開発は新時代へ～」山崎直子
(参加者175名)
「捨てられている熱を電気に変えよう！」北海道大学教授 太田裕道
(参加者48名)
- ▼ 2階「学習コーナー」に、科学及び科学技術に関する資料・図書を置き、学校の総合学習をはじめとする学習の補助とした。

▽ 科学に関する実習、実験及び講座等の開催

▼ 色々な現象の観察や体験を通して、子どもから大人までの幅広い層の参加者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるような実験・実習を実施した。

・工作教室
「ものをつくる喜び」を喚起し、科学的な視点を養うことを目的とした工作教室を開催した。
小中学生向け 171回 参加者数1,467名
夏休み 12日間48回 参加者数736名
冬休み 8日間32回 参加者数596名
土曜 3回 参加者数40名

●各種実演

・サイエンスショー
身近な材料を使って、科学現象や原理を楽しくわかりやすく伝えるショーを実施した。
745回 参加者数19,555名
「光よあれ もっと光を」ほか
・ロボットショー
サッカーロボットやコミュニケーションロボットの実演によりロボット技術についての紹介を行った。
2回/日

・テレビスタジオ
クロマキー撮影など、テレビスタジオで使われている技術の紹介を行った。
2～3回/日
・低温展示室
マイナス10度の室内でつららや流氷などの展示・解説を行った。
3回/日

山崎直子名誉館長の講話を実施することで、当館のPRと新たな利用者の開拓につなげることができた。

主に小学生に対して、ものづくりへの興味・関心を高めることができた。

サイエンスショーや人工降雪装置の実演などを通し、科学や科学技術の知識を提供し、市民の興味関心を喚起することができた。

特別展等については、新しいものを常に企画し市民に科学の面白さを努める工夫が見られ、大変評価する。引き続き、科学や科学技術の普及啓発となるような様々な企画展を期待する。

生涯学習関連施設として、科学を楽しめる実験や講座の実施に努めており、評価する。今後も、青少年を中心としながら幅広い年代に対し科学への興味・関心を高めるような事業の実施に取り組むこと。

科学館ならではの实演は、来館者の興味・関心を高める効果的な事業であり、様々な工夫をしながら実施されており評価する。

- ・人工降雪装置
自然環境と同様の条件で雪を降らせ、雪や降雪に関する解説を行った。
4回/日
- ・ちょびっとサイエンス
展示室内にて対面型の簡単な実験を行った。
34回3,883名

- ・日曜実験室
子どもたちの科学への興味・関心を高めるため、小中学生向けの実験教室を開催した。
64回689名
「シジミのヒミツ?! ~生きている様子を観察しよう~」ほか

- ・ちびっこワークショップ
就学前の児童と保護者向け実験・工作教室を開催した。
5回837名
「つくってあそぼう! コロコロぺんたくん」など

- ・移動科学館
普段の授業では困難な実験を学校へ出向き実施し、理科の授業を支援した。
小学校5年生 6校317名
「電気と磁石は親戚!？」

- ・幼児のための出前サイエンス
幼児の科学の芽を育むため、幼稚園等に出向いてサイエンスショーを行った。
幼稚園4園578名
「サイエンスマジシャンのふしぎなマジック」ほか

- ・実験・実習への協力
市内の小学校および幼稚園等を対象に、3階サイエンスホールで、学習内容に沿った実験等を行った。
15回995名

- ▼ サイエンジャー科学教室
主に土曜日と夏休み期間中に小・中学生を対象に、テーマや実演方法を工夫した工作・実験教室などを実施した。
19回 受講者310名
「探偵! サイエンススコープ」(北海道小学校理科研究会)
「ROBOLABプログラミング教室」(日本IBM株)ほか

- ▼ 親子科学教室
親子で参加する実験・工作教室を実施し、来館者やイベント参加へのきっかけづくりとした。
8回94組217名
「トライサイエンス~ヨットカーを走らせよう! ~」(日本IBM株)ほか

4か月ごとにプログラムを変更し、多くの分野の内容を取り扱うことにより、理科の面白さを伝えることができた。

未就学児とその保護者に対し、ワークショップを通して科学の面白さを提供できた。

各小学校で、より専門的な実験を行うことで、子どもたちの科学に対する興味・関心を高めることができた。

就学前の子どもたちに対し、科学のおもしろさ・楽しさを伝えることができた。

サイエンスホールを活用し、来館する市内小学校等を対象に学習単元に基づくサイエンスショーを行うことで理解度を深めることができた。

他団体と連携し、様々な分野の体験型実験教室を実施できた。また、それらを通して職員の資質向上を図ることができた。

親子で科学について学べる機会を提供し、親子の触れ合いと科学の魅力を伝えることができた。

学校の授業では体験できない実験を行っており、引き続き児童の興味・関心を喚起するような実験を期待する。

専門性の高い事業の実施は、小中学生のみならず一般の方からの要望も強いことから、更なる事業拡充を期待したい。また、事業実施したことで得られた知識や経験を、今後の事業に生かし拡大していくことを期待する。

<p>▼ 中高生による科学教室 中学校・高校の科学部などの生徒が研究の成果を発表し、互いに交流する場を提供するとともに、一般参加者も参加・体験できる科学教室を実施した。 参加校5校59名</p> <p>▼ 大学生による科学教室 大学生の研究実践の場を提供するとともに、子どもたちの科学への興味関心を高めるため、大学生が小中高生を指導する科学教室を実施した。 2回 受講者37名 「大学生が教えるロボット相撲講座！」(北海道科学大学)ほか</p>	<p>中高生に研究成果の発表の場を提供することにより、交流の機会を増やし、活動の活性化を図ることができた。</p> <p>参加者に、科学に対する興味関心を高めることができた。講師役である大学生にとっても研究実践の場となり、経験を積む機会となった。</p>	<p>引き続き連携拡大に向けた取組に期待する。</p>
<p>▽ プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発</p> <p>▼ 仕様書に基づき、1日4～6回星空の生解説を含めた通常投影を行うとともに、効果的な時期に興味深いテーマの投影を実施することで、市民への天文知識・興味の普及啓発に努めた。 通常投影 1,388回 観覧者97,822名 特別投影 7回 観覧者1,023名 イブニングプラネタリウム 7回 観覧者475名</p>	<p>プラネタリウムを活用し、天文分野の基礎的な知識から最新の話題までを紹介し、来館者の興味関心を喚起することができた。</p>	<p>プラネタリウムを活用し天文分野の興味関心を高める取組は評価するが、利用者数の増加につながるような取組も期待する。</p>
<p>▼ キッズプラネタリウム 未就学児と保護者を対象に、歌や動物探しを取り入れた特別なプラネタリウムを実施した。 4回 観覧者440名(平日)</p>	<p>新たな利用者の掘り起こしにつなげることができた。</p>	<p>閑散期への対応は今後も重要な取組であるため、引き続き新規の利用者の開拓に向け尽力すること。</p>
<p>▼ オート番組制作・購入 一般投影時に用いる小学生向けプラネタリウムオート番組「科学戦隊サイエンジャーと火星旅行」を制作および、「Space Dreamers～宇宙兄弟 南波六太がやってきた～」を購入し、投影した。</p> <p>▼ 学習投影 小中学校を対象に、理科授業の一環として、学校の教室では表現しづらい天体の動き等を学習するプラネタリウム投影を行った。 271校 143回 観覧者19,394名(市外含む)</p>	<p>職員のシナリオにより、当館ならではの特徴を持つ番組を制作することができた。</p> <p>学校では表現しにくい天体の動き等について、ドーム空間で再現することで児童・生徒の理解度高めることができた。</p>	<p>引き続き他館との差別化に向けた取組に期待する。</p>
<p>▼ 移動プラネタリウム 地理的・時間的に来館困難な小学校などへ出向き、学習投影を行った。また、幼稚園やイベントなどで星空の投影と解説を行った。 ・幼稚園5園 観覧者409名 ・小学校9校 観覧者336名 ・中学校5校 観覧者772名</p>	<p>来館困難な子どもたちに、天文分野の学習の支援することができた。</p>	<p>アウトリーチ活動については、実施面で限界があるものの、事業としては市民の満足度が大変高い事業であるため、引き続き可能な範囲での実施を期待する。</p>
<p>▼ 字幕付きプラネタリウム 耳の不自由な人のために、字幕付き投影を行った。 4回 観覧者242名</p>	<p>字幕をつけることで耳の不自由な利用者にもプラネタリウムを楽しんでもらうことができた。</p>	

<p>▼ プラネタリウム祭り プラネタリウムの可能性や認知度を高めるとともにその魅力を広く市民に伝えるため、絵本の読み聞かせなど、科学以外のジャンルと組合せた内容のイベントを実施した。 4日間 観覧者3,140名</p>	<p>一般投影とは趣向を変え、プラネタリウムを利用した新たな取り組みを多数実施することができた。</p>	<p>幅広い利用者に満足度の高い事業については、今後も継続した取組を期待する。</p>
<p>▼ 移動天文台 市内各地域の団体からの依頼により、移動天文車と職員・天文指導員を派遣し、観望会を行った。 33回 観覧者2,787名 6月16日(金)～10月27日(金) 拓北養護学校、藤野小学校など</p>	<p>広く市民に天体観望の機会を提供し、天文知識を普及することができた。</p>	<p>申込に柔軟に対応を実施しており、引き続きの対応に期待する。</p>
<p>▼ 札幌市天文台 都心近接の立地条件を活かして、天体観望会の機会(昼・夜)を提供した。 午前305回 観覧者6,939名 午後259回 観覧者7,155名 夜間61回 観覧者3,620名</p>	<p>日中は太陽、夜間は季節の星座を中心に、広く市民に天体観測の機会を提供できた。</p>	<p>天文台においては、工夫した取組により来台者が継続的に増加しており、大変評価する。</p>
<p>▼ 宇宙セミナー 宇宙・天文についての興味関心を高めるため、第一線で活躍する専門家を招いて講演を行った。 1講演 観覧者64名 1月21日(日)「重力波で探る宇宙の歴史」 北海道大学教授 羽部朝男</p>	<p>第一線で活躍する専門家を招いて講演を開催し、最先端の天文知識に触れられる機会を提供できた。</p>	<p>研究者を招いた専門性の高い事業は、子どもだけではなく大人も興味・関心が高く好評である。引き続き、市民に専門性の高い事業を提供していくことを期待する。</p>
<p>▼ 大人のための天文教室 大人対象の天文教室を継続して実施することにより、科学館利用者の年齢層の拡大を図った。 親子天文教室 5回106組 受講者264名 やさしく学ぶ星空教室 2回全6日 受講者54名 詳しく学ぶ天文講座 1回全4日 受講者32名 はじめての天体写真講座 1回全4日 受講者15名</p>	<p>天文現象の解説や天体観測機器を活用した天文教室を行うことで、市民へ天文知識を提供できた。</p>	
<p>▼ 天文指導員の養成 天文に興味を持っている又は指導する立場を目指している市民等を対象として、天文普及活動を担う人材を育成している。 登録者数36名 ・天文指導ボランティア養成講座 1回全10日 受講者24名</p>	<p>天文指導に興味関心を持つ市民に対し、基礎知識を身につけられる機会を提供できた。</p>	
<p>▼ 昼間の星を見よう 利用者からの意見を反映した、科学館屋上の天文台での昼間の観望会を実施した。 50回 観覧者727名</p>	<p>科学館屋上の望遠鏡を活用し、来館者に対し昼間でも見られる明るい星を紹介することができた。</p>	
<p>▽ 展示資料等に関する調査研究及び関係機関等との協力 ▼ 科学系博物館等と連携し、協会等が主催する研修への参加や各種会合へ出席することで、現状の把握、今後の展望、対策など幅広く情報交換した。</p>		

- ・平成29年度北海道青少年科学館連絡協議会総会及び第1回館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会)
- ・平成29年度全国プラネタリウム大会・広島2017(日本プラネタリウム協議会)
- ・ミュージアムキッズ全国フェア! 2017(こどもひかりプロジェクト)
- ・日本公開天文台協会(JAPOS)第12回全国大会(福岡・星野大会)(日本公開天文台協会)
- ・第26回(平成29年度)指定都市科学館連絡会議(指定都市科学館連絡協議会)
- ・第27回(平成29年度)全国科学館連携協議会総会・監事会(全国科学館連携協議会事務局)
- ・JPA全国プラネタリウムネットワーク研修会in北見(日本プラネタリウム協議会北海道プラネタリウムネットワーク)
- ・平成29年度(第56回)北海道博物館大会(北海道博物館協会)
- ・第53回北海道青少年科学館研修大会(北海道青少年科学館連絡協議会)
- ・平成29年度北海道社会教育セミナー(北海道立生涯学習センター)
- ・全国科学館連携協議会の人材交流事業(全国科学館連携協議会)
- ・第5回サイエンスフェアリー(静岡科学館)
- ・第8回全国理工系学芸員展示研究大会(全国理工系学芸員会議)
- ・平成29年度国内研修(全国科学博物館協議会)
- ・平成29年度道中理冬季研修会(北海道中学校理科教育研究会)
- ・北海道小学校理科教育研究大会 第12回冬季研究大会(北海道小学校理科教育研究会)
- ・第25回日立サイエンスショーフェスティバル(公益財団法人日立市民科学文化財団)
- ・第2回全国科学博物館協議会理事会・総会及び研究発表会(全国科学博物館協議会)

▼ 夏・冬休みで特別展を実施する中で、各種関係機関に展示物の貸与等で協力をいただいた。

- ▼ 各種関係機関と連携し、以下の取り組みを行なった。
 - 社会教育施設・団体等と連携し、以下の取り組みを行なった。
 - ・図書館デビューの日(札幌市えほん図書館)
 - ・サイエンZOO(動物園科学の日)(札幌市円山動物園)
 - ・かるちやるnetへの参加(事務局:北海道博物館)
 - ・CISEネットワークへの参加(事務局:北海道大学総合博物館)
 - ・「サイエンス厚別」(札幌市厚別区PTA連合会)など
 - 学校教育機関等と連携し、以下の取り組みを行なった。
 - ・札幌市教育センターと連携した「教員研修」実施 8回152名
 - ・実験実習の貸し出し 22団体85セット
 - ・職場体験の受入れ 13校47名
 - ・北海道インターナショナルサイエンスフェア(札幌啓成高校)
 - ・札幌啓成高校「啓成SSH in 光の広場」への協力
 - ・札幌市創意くふう作品展(札幌市創意工夫教育研究会ほか)
 - ・北海道青少年科学技術振興作品展(北海道発明工夫教育連携ほか)
 - ・「教員のための博物館の日in 札幌」(北海道開拓の村ほか)への参加など
 - 高等教育機関等と連携し、以下の取り組みを行なった。
 - ・「科学”大”実験」(北海道科学大学)
 - ・「没入!バーチャル支笏湖ワールド」(北海道大学CoSTEP)
 - ・「マーブリングアーティストになろう」(札幌市立大学)
 - ・「自分が生まれた日の地球をつくろう」(北海道情報大学)
 - ・博物館実習の受入れ 3校4名など
 - 地域と連携し、以下の取り組みを行った。
 - ・新さっぽろ冬まつり(同実行委員会)
 - ・あつべつ区民協議会イベントへの参加・協力など

関係機関が主催する研修へ参加し、積極的な情報交換を行うことにより、職員の資質向上につなげることができた。

職員の資質向上に努め、情報の蓄積を続けており、評価する。今後も科学普及活動に向けた事業の実施のために積極的な情報交換・研修等行うことを期待する。

市内外の社会教育施設と連携し、イベント内容の充実化を図り、交流を深めることができた。

各団体の特性を生かした取組を進め、ネットワーク作りを進めており、評価する。引き続きネットワーク作りを推進するとともに幅広い世代への学習機会の充実を期待する。

理科教育を重点的に行っている高校(スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校)との連携を進め、高校への支援体制を高めることができた。

大学とのネットワークづくりを進めるとともに、各大学の特性を生かした学習機会の充実を図ることができた。

大学による専門性の高い取組は、新しい利用者層の発掘にもつながることから、今後の連携が拡充するような取組に期待する。

地域に根差した博物館として、地域との連携は積極的に進めることができた。

- その他
 - ・メカトロ教室((一社)日本機会学会)
 - ・Kids Ventureプログラミング教室(さくらインターネット(株)ほか)
 - ・第3回マイコンレーサー北海道大会(北海道ロボット教育推進会)
 - ・宇宙の日 作文・絵画コンテスト((一財)日本宇宙フォーラム)
 - ・ジオ・フェスティバル in Sapporo2017(同実行委員会)
 - ・親子工場見学会((一社)セメント協会)など

▼ 2階「学習コーナー」において、来館者が科学に関する学習ができるよう、毎月テーマ別に資料を購入・展示した。

▼ 市民の天文への興味・関心を高めるため、季節の星空情報や天文にまつわる話を掲載した天文情報リーフレットを隔月発行した。
6回 年計45,500部

▽ その他科学等の設置目的を達成するために必要な業務

▼ 科学や宇宙・天文に関する疑問や質問に可能な限り回答し、市民の自主学習を支援した。

月や惑星の動き、季節ごとの天体情報などを市民に提供し、広く情報の発信に努めることができた。

解説や質疑を丁寧に行うことにより、市民の自主学習を図ることができた。

様々な企業と連携を行うことで、最先端の技術に触れることができる機会を提供しており、今後もより一層の充実を期待する。

双方向コミュニケーションの充実には、利用者にとっても科学知識を深めることにつながることから、引き続き支援を期待する。

(5)施設利用に関する業務	▼ 利用件数等 (人) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28実績</th> <th>H29計画</th> <th></th> <th>H29実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示室</td> <td>258,216</td> <td>255,898</td> <td></td> <td>234,725</td> </tr> <tr> <td>プラネタリウム</td> <td>127,663</td> <td>119,673</td> <td></td> <td>117,700</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>385,879</td> <td>375,571</td> <td></td> <td>352,425</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>事業参加者数</td> <td>61,844</td> <td>—</td> <td></td> <td>63,700</td> </tr> </table> ▼ 不承認0件、取消し0件、減免40,083件、還付0件 ▼ 利用促進の取組 ▼ 夏冬春の小学校などの長期休み期間以外でも、企画展を開催したり、閑散期に家族で楽しめるイベント(サイエンスショースペシャル等)を開催した。また、他団体との連携事業(SSH指定校・札幌文化芸術交流センター等)により新しい来館者層の掘り起こしに努めた。さらに、札幌市天文台も活発な広報活動や地域イベントに協力した。 ▼ リピーターの拡大を図るため、小中学生を対象に会員を募り、メールマガジンでイベントの案内を行うほか、会員を対象としたイベントを実施した。また、Sciキッズ会員の中から希望者を募り、更に科学の学びが深められるような科学教室やクラブ活動などを行った。 ・ Sciキッズ会員 76名(新規39名、更新37名)		H28実績	H29計画		H29実績	展示室	258,216	255,898		234,725	プラネタリウム	127,663	119,673		117,700	総計	385,879	375,571		352,425	事業参加者数	61,844	—		63,700	工夫した各種実験教室や特別展の実施、また広報の充実により、利用促進を図ることができた。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </table> 計画以上の来館者とはならなかったものの事業参加者数については、昨年度を上回っており、ソフト事業の多様な取組を評価する。引き続き、幅広い利用者層に向けたソフト事業の拡充に期待する。 長期休暇だけではなく、更なる利用者層の確保に向けた取り組みは大変評価できる。	A	B	C	D
		H28実績	H29計画		H29実績																											
展示室	258,216	255,898		234,725																												
プラネタリウム	127,663	119,673		117,700																												
総計	385,879	375,571		352,425																												
事業参加者数	61,844	—		63,700																												
A	B	C	D																													
(6)付随業務	▼ 広報業務 ▼ ホームページに「最新の科学トピックス」や「裏側レポート」、「イベント情報」を掲載するなど、科学館の魅力の向上に努めた。 ▼ 広報媒体を使い分け、大人や子どもなどに対して効率的かつ効果的に情報提供を行った。 ▼ マスコミに対し、積極的に情報提供を行った。 ▼ 引継ぎ業務 ▼ 前年から継続指定のため、引継ぎ業務なし	プレスリリース等を積極的に行い、当館の事業について広く市民に知ってもらうことができた。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </table> 今後も事業の紹介や結果を含め、幅広い世代の方にわかりやすく伝え、利用者増につながるような工夫した取組を期待する。	A	B	C	D																									
A	B	C	D																													

2 自主事業その他						
▼ 自主事業 ▼ 自動販売機事業 売上高5,367,515円 ▼ 売店事業 売上高6,307,180円 ▼ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 ▼ 物品・印刷物・消耗品等の調達については、特殊なものを除き、札幌市内の企業等に発注し、積極的な活用に努めている。また、業務の再委託について、入札の指名にあたり、業務内容等を踏まえ優先的に札幌市内の企業等を選定した。	市内企業等への発注や活用について配慮できている。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </table> 物品調達等は、引き続き市内企業を活用し取り組むこと。	A	B	C	D
A	B	C	D			

<p>▼ 物品の購入・印刷物作成などの発注を行う際、その内容・金額等の条件が許す範囲において、社会福祉団体等を活用した。</p> <p>▼ 事業運営において、障がい者が利用しやすい環境づくりに取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の貸し出し ・プラネタリウムでの補聴器貸し出し ・字幕付きプラネタリウムの実施 	<p>館内利用や事業実施時に、障がい者が利用しやすい環境づくりに取り組むことができている。</p>	<p>障がいのある方も学ぶことができる工夫がされており、評価する。</p>
--	---	---------------------------------------

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

		A	B	C	D
実施方法	夏休み・冬休みの特別展期間の中から数日間、館内にアンケート記載場所を設置し、観覧者に対し回答してもらうよう声掛けをする形式で実施した。 集計数:382件	アンケート結果から、事業、接遇ともに「とてもよかった」、「よかった」との評価が80%以上を占め、概ね満足をいただくことができた。		各種アンケート結果が良好であり評価する。職員の対応も、高評価を維持できるよう、利用者からの意見・要望に応じていくなど、市民サービスの向上に努めること。	
結果概要	<p>科学館の感想 とてもよかった(53.3%) / よかった(36.4%) / ふつう(9.2%) / あまりよくなかった(0.5%) / よくなかった(0.5%)</p> <p>特別展等の内容の満足度 とてもよかった(62.2%) / よかった(32.1%) / ふつう(4.4%) / あまりよくなかった(1%) / よくなかった(0.3%)</p> <p>職員の対応 とてもよかった(55.0%) / よかった(29.9%) / ふつう(14.6%) / あまりよくなかった(0.3%) / よくなかった(0.3%)</p>				
利用者からの意見・要望とその対応	<p>【意見・要望】 ・休館日情報、売店、授乳室などの情報を出してほしい。</p> <p>【対応】 ・科学館ニュースをリニューアルし、休館日も含めたイベントカレンダーを掲載した。また、売店やベビーカー貸し出しの情報も、記事として掲載した。 ・イベントリポートで売店商品の紹介を行った。</p>				

4 収支状況				利用料金は計画よりも下回ったものの、支出を抑制し、収支の均衡を図ることができた。	A B C D 利用料収入においては、計画の約25%増となっており、一般(大人)の利用者が増えていることから、今後も引き続き、市民ニーズを捉えた事業の実施に期待する。
▽ 収支 (千円)					
項目	H29計画	H29決算	差(決算-計画)		
収入	464,059	459,674	▲ 4,385		
指定管理業務収入	453,959	447,997	▲ 5,962		
指定管理費	371,787	371,787	0		
利用料金	80,000	73,884	▲ 6,116		
その他	2,172	2,326	154		
自主事業収入	10,100	11,677	1,577		
支出	459,311	455,550	▲ 3,761		
指定管理業務支出	449,732	448,041	▲ 1,691		
自主事業支出	9,579	7,509	▲ 2,070		
収入-支出	4,748	4,124	▲ 624		
利益還元	0	0	0		
法人税等	35	1,000	965		
純利益	4,713	3,124	▲ 1,589		
▽ 説明					
・前年度のプラネタリウムリニューアルに伴う利用者の増加は落ち着き、利用料金は平年並みとなった。売店等についてはオリジナル商品の開発や特別展等と関連する商品を扱うことで売り上げを伸ばすことができた。					

<確認項目> ※評価項目ではありません。			
▽ 安定経営能力の維持			適 不適
▼ 当団体の財務状況等は極めて良好であり、安定経営能力は選定時より向上している。			
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応			適 不適
▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応している。			

III 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
常設展示・実演およびプラネタリウム等の運営を行い、市民に対して科学への興味関心を喚起した。 特別展では展示物の制作から運営方法まで当館職員が企画・実施し、オリジナリティあふれるものとなった。 また、ロケットの打ち上げのパブリックビューイングや、ノーベル賞と関連した専門性・話題性の高い講演会など、子どもたちのみならず大人の知的好奇心を満たすような事業展開を図った。 さらに、他施設・他団体と積極的に連携を図り、館内および館外において事業を実施し、当館と連携先とのつながりを強化した。	次年度からは新たな指定管理期間が始まるため、これまでの経験やノウハウを活かし、札幌市の推進する「科学を育てるまちづくり」に貢献していく。 特に学校教育との連携、生涯学習の推進、地域・他施設との連携、効率的かつ安心・安全な管理運営について意識しながら、運営に努める。 施設や展示物等の老朽化が進んでいるため、保守管理や修繕等に関しては教育委員会と協議を図り進めていきたい。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
開館から36年が経過し、展示物が老朽化をしている中で、特別展や大学等との連携によるソフト事業の充実を図り、多様な来館者が訪れるような取組を実施しており、引き続き新しい利用者層の確保につながる取組を期待する。 また、館内だけではなく、他施設・他団体との連携強化にも積極的に取り組んでおり、これまで以上に札幌市の科学館として魅力ある施設づくりを期待する。 なお、事業の拡充に伴い業務が増加していることから、定期的に業務の内容を見直すなど、効率的な事業運営につながるような工夫も必要。	科学及び科学技術の知識の普及啓発を通して創造性豊かな青少年の育成を図るため、事業等についてはスクラップアンドビルドを進めながら、市民ニーズに対応する取組を検討すること。 また、展示物や施設設備については、これまで以上に本市との連携を密に取りながら、出来る限り休止・故障となる展示が増加しないよう調整を進めること。

